

# 山あいも魅力たっぷり

朝日町と北日本新聞社によるバスツアー「朝日町こころの旅・秋編」が4日、町内一帯で行われ、幅広い年代層の130人が山あいの豊かな自然や特産物など朝日の魅力を満喫した。

## 朝日町と本社がバスツアー



折谷さん（中央奥）から笹川の歴史や文化について聞く参加者

## 自然や文化に親しむ

「いつてみたい、住みたい朝日町ブランドづくりプロジェクト」の一環として企画した。県西部を含め各地から応募があり、あいの風とやま鉄道富山、高岡駅を発するバス3台に分乗して向かった。

同町笹川の町ふるさと移住交流体験施設・さく郷ほたる交流館では、元笹川公民館長の折谷隆三さん(77)から戦国・江戸時代の風習や地域の特産について聞いた。雨が降る中、傘を差して緑に囲まれた地区内を散策した。

本紙連載「消えてたまるか！朝日町 記者の役場体験記」を読んで興味を持ったという富山市大泉の松本和子さん(69)は「ヒスイ海岸以外に朝日のことを知らなかったので参加した。笹川は山間部ならではの良さがあり、晴れていけば川の流れもきれいだらうと思う」と話していた。

一行は「びるだんアートフェスティバル2017」の会場となった蛭谷自治会館や、5日まで「CRAFT(クラフト)あさひ たなこころの気持ち」(北日本新聞社後援)が開かれている交流体験施設・なないろKANも訪れた。町名物・タラ汁を味わい、体を温めた。

泊高校(同町道下)観光ビジネスコースの2年生2人が研修目的で参加した。